

平成30年度 校内研究の概要

1 研究主題

「挑み、楽しみ、つながりながら、自ら学び続ける子どもの育成」
～学びのサイクルを生みだす、体育科と各教科・領域の学びづくりを通して～

2 研究主題設定の理由

本校は、平成6年度から体育科を柱にして校内研究を行い、平成25年度からは子どもの主体的な学びや学び合う力を育むことを重点にして実践を重ねてきた。28年度からは、これまで体育科の授業づくりで明らかになった手立てを各教科・領域の授業づくりに広げながら「学び合いを位置付けた、子どもの学びのサイクル」を成立させる手立てを模索し、研究主題で目指す子どもの姿に迫ろうとしてきた。4つの視点から授業づくりの手立てを工夫して実践を行うことで、授業や教育活動のいろいろな場面で子どもの変容が見られた。例えば、教師の指示を待つのではなく課題や目標を自分ごとにして本気で取り組む姿や、相手の気持ちを受けとめたり自分の思いを発信したりすることで人とつながるよさを感じる姿、学習の達成感を感じながら新たな自分自身のよさに気づいていく姿などである。これらの姿から、「挑み、楽しみ、つながりながら、自ら学び続ける子ども」に迫るためには、子どもの中に学びのサイクルが生まれ、ひとりでの回りだすことが大切であることが明らかになってきている。

しかし、本校の子どもたちは、一人一人がそれぞれの思いを持って学習にむかっているものの、自分の持っている能力を、普段の生活の中で場に応じた対応が求められる時に十分発揮できないという課題を抱えてきている。この課題を解決し、今年度に本校で目指す「自分の思いをもつとともに、相手の考えを受け止めて行動できる子ども」「じっくりと構え、失敗を恐れずに挑戦できる子ども」「自分達で創り上げようとする自立心と達成感をもつ子ども」の姿に育てていくためには、自分の思いをもって自ら学びながら、達成感や自己有用感を十分に実感する経験を授業や教育活動全体で積み重ねていく必要があると感じる。また、平成29年告示の体育科の新学習指導要領において、「具体的な内容の系統性を踏まえた指導内容の一層の充実を図ること。」(体育科改訂の要点の②)と示されており、長年の研究から培われてきた「技の系統表」や『「どこでも、だれでも」ができる体育指導』を改めて学び、「五小の体育」を引き継いでいきたい。そこで、今年度の研究主題と副主題を「挑み、楽しみ、つながりながら、自ら学び続ける子どもの育成～学びのサイクルを生みだす、体育科と各教科・領域の授業づくりを通して～」と設定した。質の高い学び合いを位置づけた学びのサイクルが子どもの中に生

まれ、ひとりでに回りだす授業づくりを模索しながら、本校の子どもたちを目指す子どもの姿に育てていきたいと考える。

3 研究主題について

(1) 「挑み」とは

課題を自分ごととしてもち、主体的に解決しようとする子どもの姿。

(2) 「楽しみ」とは

新たな知識や技能を身に付けたり様々な考えを伝え合ったりするなかで、自分自身や仲間が高まることを楽しむ姿。

(3) 「つながる」とは

教材や、仲間や、地域と主体的にかかわり、思いを深めていく姿。

(4) 「自ら学び続ける」とは

- ・学びを通して自分のよさを実感し、新たな課題を見つけよりよい自分の姿を求めて探究を続ける姿。
- ・知識や技能だけではなく、「学ぶ力（資質・能力）」を身に付け、学び続ける姿。

4 研究の内容と方法

昨年度までの成果と課題から見えてきたことをつなげて、研究主題で目指す子どもの姿に迫るための授業づくりのイメージをもち（イメージ図参照）、「子どもの中に学びのサイクルが生まれ、ひとりでに回りだす手立て」を4つの視点から模索していく。さらに、子どもの見とりと教師の出かたについてより具体的な計画を立てて授業に臨み、事後研究会で子どもの思考や姿を通して検証しながら、子どもの主体的な学びを後押しする「授業の中での教師の見とりと出かた」を考えていく。

5 研究の計画

(1) 研究全体会・研究推進委員会・研究学年部会について

①研究全体会

各学期に行い、研究の成果や課題について話し合う。

②研究推進委員会

研究全体会や授業研究会の前に行い、研究の内容や協議内容について話し合う。

③研究学年部会

学年部授業研究会にともなう事前研究会と事後研究会を行い、指導案や授業について話し合う。

(2) 授業研究会について

- ① 「事前研究会」→「提案授業」→「事後研究会」の流れで授業づくりを行う。
教師の思いやねらいをもとにした単元構成や4つの視点の手立ての工夫の吟味、単元の中での子どもの変容の見とりと教師の出について参加者が話し合い、授業づくりと実践を通した子どもの変容から研究の成果と課題を明らかにする。
- ② 「事前研究会」→「提案授業」→「事後研究会」は、低学年部会と中・高学年部会で進める。ただし、全体授業研究会については、全員で事前・事後研究会を行う。
- ③ これまでの体育科・各教科の授業実践を積み上げて明らかになった「学びのサイクルを生み出す手立ての4つの視点」をもとに、体育科・各教科・領域の授業づくりをすることを通して先生方個人の研究の深まりを目指したい。個人で指導案を書いて授業研究会を行うのは、体育科か各教科・領域のどちらか1つとする。低・中・高学年部で体育科と各教科・領域の両方の授業研究会が行われることが望ましい。
- ④ 体育科の実践では、これまでの体育科の研究で積み上げられた技の系統表や授業実践の工夫を活用し引き継いでいく。
- ⑤ 全体授業研究会を3回（低・中・高学年）、学年部授業研（支援級を含む全員）を行う。